

Pollen-food allergy syndrome and component sensitization in adolescents: A Japanese population-based study.

出典	PLoS One 2021;16(4):e0249649 (https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33852622/)
著者	Kiguchi T et al.
調査地域	東京都
調査時期	2004～2006年に登録した出生コホートを13歳まで追跡
調査対象	13歳
依頼数	1550人
有効回答数 または回収率	13歳時点での質問紙調査 46.8% (726人)、血液検査 32.7% (506人)
診断方法	ISAAC 及び独自の質問票
有症率	OAS は 15.9%、PFAS は 11.7%
調査概要	東京都の出生コホートを13歳まで追跡して、13歳時点での花粉症、花粉アレルギー、OAS、PFASの頻度を調査している。